

# 中学校英語科における「話すこと [やり取り]」の 指導と評価の工夫

—— 自律的な学習を促す「パフォーマンス課題資料集」の活用を通して ——

長期研修員 長竹 智宏

## 《研究の概要》

本研究は、中学校英語科の「話すこと [やり取り]」の指導と評価の充実を図るものである。具体的なパフォーマンス課題とそれに関する単元末のスピーキングテストを設定し、パフォーマンス課題ごとに、自律的な学習を促す「パフォーマンス課題資料集『Step by Step』」を系統的に作成、活用した。特に学習指導要領の三つの柱に基づいて焦点化した目標と指導、スピーキングテストの妥当性・信頼性・実用性の向上につながる評価を工夫したパフォーマンス課題資料集「Step by Step」の有効性と、ポートフォリオ化も含む活用法の有効性を検証した。

**キーワード** 【英語—中 話すこと [やり取り] 自律的な学習 パフォーマンス課題  
スピーキングテスト ポートフォリオ】

群馬県総合教育センター

分類記号：G09-02 平成30年度 267集

## I 主題設定の理由

グローバル社会の急速な進展に伴い、国内外を問わず、日本人が英語をコミュニケーションの手段として使う必要性が増してきている。文部科学省からは「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が平成25年度に示され、学習指導要領（小学校・中学校は平成29年3月公示、高等学校は平成30年3月公示）実施に向け、計画的に英語教育の高度化が進められている。学習指導要領で示された資質・能力の三つの柱を踏まえた授業改善が求められる中で、特に「学びに向かう力，人間性等」に関する中学校外国語の目標は、今回の改訂で「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と変わった。これについて、中学校学習指導要領解説外国語編（平成30年3月）では、「単に授業等において積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度のみならず，学校教育外においても，生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとするといった態度を養うことを目標としている」と示している。このことから、自律的な学習態度の育成が求められていると言える。

また、学習指導要領では、「話すこと」の技能が「話すこと [やりとり]」と「話すこと [発表]」に分けられ、全体で五つの領域として英語の教科指導を大きく見直すことになった。さらに、学習評価の充実に関して、中学校学習指導要領の「第1章 総則」の「第3 教育課程の実施と学習評価」の中で、「創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう，組織的かつ計画的な取組を推進するとともに，学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること」が求められている。このことから、「話すこと [やり取り]」の領域において、指導と評価の一体化を意識したスピーキングテストの実施や、学びの連続性を意識した取組の工夫が必要であると言える。これに関して、平成30年度の「群馬県英語教育改善プラン」（群馬県教育委員会）には、中学校でのスピーキングテストの実施目標を年間3回とし、定期テストと同程度の回数で計画的に位置付けて実施することや、授業内容に合致した評価方法で組織的に実施することの必要性が記されている。

研究協力校（以下、協力校）において、平成30年7月に全校生徒を対象に英語学習に関するアンケートを行った。五つの領域の中で、各学年ともに「話すこと [発表]」と「話すこと [やり取り]」における「関心・意欲」や「自信」の程度が低く、「話すこと」の指導と評価の改善が課題として浮き彫りになった。「話すこと [やり取り]」のパフォーマンス課題が単元のゴールとして示された教科書の単元が少ないこともあり、スピーキングテストの系統的・計画的実施が難しい現状があった。また、同一学年を指導する英語教員間での評価のずれを避けるために ALTに評価を任せることが多く、評価者ではない JTEからは生徒への具体的なフィードバックが不足してしまう傾向があった。一方、「話すこと [やり取り]」の領域における学習方法がよく分からないという生徒が多く、学習の目標設定と振り返りといった学習習慣についても、定期テストと比べ、スピーキングテスト前後はあまり習慣化されていない実態が見られた。

国や県から示された教育課題や協力校の実態を踏まえ、「話すこと [やり取り]」の指導と評価において、パフォーマンス課題の達成に向けて自律的な学習を促進したり、パフォーマンス評価としてのスピーキングテストの信頼性・妥当性・実用性を高めたりするために系統的に作成した「パフォーマンス課題資料集」と、そのポートフォリオ化も含めた活用法の有効性を明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

中学校英語科の「話すこと [やり取り]」の指導と評価において、パフォーマンス課題に向けて生徒の自律的な学習を促したり、スピーキングテストの信頼性・妥当性・実用性を高めたりするために系統的に作成した「パフォーマンス課題資料集」の有効性と、そのポートフォリオ化も含む活用法の有効性を明らかにする。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 学習指導要領の三つの柱に基づいて焦点化した目標と指導の工夫

三つの柱に関わる外国語の目標を基に、「話すこと [やり取り]」の領域の指導を三つの観点別に「コミュニケーションポイント」として焦点化した。そして、各コミュニケーションポイントについて意識化させたい内容を具体化した(表1)。パフォーマンス課題に関する各単元の指導では、観点別に焦点化した授業のねらいを提示し、単元末のスピーキングテストに向けて英語でやり取りする力がバランスよく向上するようにした。また、コミュニケーションポイントを各単元で共通に提示することで、生徒が継続的に意識し、英語でやり取りする力の向上を図りやすくなるようにした(表1)。

表1 「コミュニケーションポイント」とその具体的な内容

三つの柱に基づく観点	知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
コミュニケーションポイント	正確な表現	やり取りの継続	積極的な態度
具体的な内容	・各学期主な既習表現のうち、特に活用を促すもので3項目	・すらすらとした返答 ・関連内容での質問 ・関連内容での補足	・アイコンタクト ・聞き取りやすい声 ・相づち等

##### (2) スピーキングテストの信頼性・妥当性・実用性向上のための評価の工夫

本研究では、スピーキングテストが適切なものとして機能するように、信頼性・妥当性・実用性の各視点で分析して考えていく。信頼性に関しては、一人の評価者でも複数の評価者間でもあまり差が生じないような評価は信頼性が高い。妥当性に関しては、目標・指導・評価が一体化するように、育てたい力を授業中の言語活動や家庭学習等の自主的な学習を通して育み、その成果が発揮されるような評価は妥当性が高い。実用性に関しては、確保できる時間や労力の範囲において、テストを作成・実施・採点・解釈しやすいかということで、教員の負担感や困難さが少ない評価は実用性が高い。そこで、信頼性・妥当性・実用性向上のポイントを明確にし、それぞれの具体的な取組を通して向上が図れるようにした(表2)。

表2 信頼性・妥当性・実用性向上のポイントとその具体的な取組

スピーキングテストの三つの分析的視点	信頼性	妥当性	実用性
信頼性・妥当性・実用性向上のポイント	教員間の共通理解	指導と評価の一体化	テストの円滑な実施
具体的な取組	・指導例と評価例の事前の確認 ・事前の評価練習	・指導を通した生徒とのルーブリックの共有と意識化	・具体的なフィードバックができる採点 ・事後の評価の解釈

##### (3) 自律的な学習の促進

自らの目標を設定し、その達成に向けて見通しをもって計画的に学習したり、自らの学習を振り返って課題意識をもち、その後の自己調整につなげたりしながら、自らよりよく取り組もうとする学習の在り方を「自律的な学習」と捉える。また、自身の学びの連続性を意識して英語学習の資料や成果物をファイリングし、ポートフォリオ化することで、将来の英語使用に向けた内発的動機付けにつなげていくことも、自律的な学習の姿として考える。このような自律的な学習を促すために、授業中の言語活動の取組や家庭学習等の取組の振り返り用紙を使って、目標設定と振り返りを単元を通して継続し、英語でやり取りする力の向上を図る。さらに、単元末のスピーキングテストの評価をポートフォリオ化する用紙を使って、次回のスピーキングテストに向けて継続的に課題を意識化することを促す。

## 2 教材の概要

### 「パフォーマンス課題資料集『Step by Step』」

「話すこと [やり取り]」に重点を置いた単元で、生徒が ALTと 1 対 1 でやり取りする機会を単元末にパフォーマンス課題として設定し、その取組をスピーキングテストで評価することにする。その際に、生徒が単元末に向けて一歩ずつやり取りの力を向上させられるように、一歩ずつを意味する「Step by Step」と名付けた「パフォーマンス課題資料集」を作成し、学習活動に応じた活用ができるようにした。また、「パフォーマンス課題資料集」には、スピーキングテストの信頼性・妥当性・実用性向上のための具体的な取組で活用する資料として「教師用ガイド」も加えた(図1)。

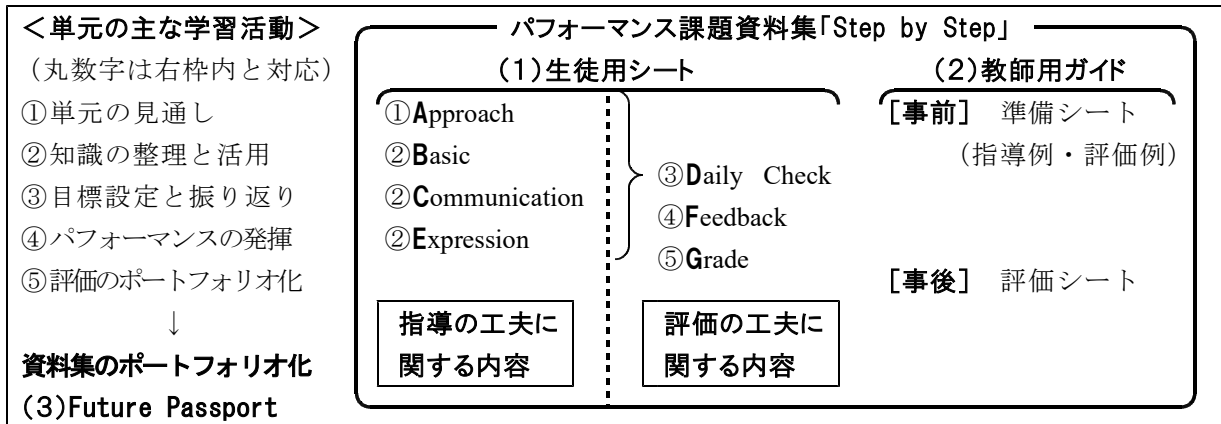


図1 パフォーマンス課題資料集「Step by Step」の内容と単元の主な学習活動との対応

パフォーマンス課題資料集「Step by Step」の生徒用シートは目的別に7種類あり、学習活動の流れの中で生徒が整理しやすいように、シート名の頭文字がAからGの順になるように名付けた。これらの内容と単元の主な学習活動との対応(図1)として、①では Approach を使って生徒が単元の見通しをもち、②では Basic で整理した知識を、やりとりの継続を意識して Communication で活用したり、正確な表現を意識して Expression で活用したりする。また、①・②と並行して、③の Daily Check で授業中の言語活動や家庭学習等での目標設定と振り返りをし、課題意識をもって自己調整を重ねることで、単元を通して自律的学習を促進できるようにする。そして、やり取りの力を向上させた上で④のパフォーマンスの発揮へとつなげ、Feedback を使って評価し、生徒に具体的なフィードバックをする。その後、⑤で Grade を使って評価をポートフォリオ化し、次のパフォーマンス課題に向けた課題意識をもてるようにする。生徒用シートは資料集ごとにファイリングし、学習の見直しをしやすくしたり、成果物を自信にしたりできるようにする。

パフォーマンス課題資料集「Step by Step」の教師用ガイドは、単元の事前の準備シートと事後の評価シートとを作成した。準備シートは、「Step by Step」を活用した単元計画と授業展開の確認のための指導例と、スピーキングテストのルーブリック(採点基準)の確認と評価練習のための評価例とで構成し、教員間の共通理解の参考にする。評価シートは、表計算のデータファイルへの観点別評価の入力で、指導上の課題把握と成績処理等の評価に活用する。

表3 「Step by Step」のパフォーマンス課題一覧

		パフォーマンス課題	活用を促す表現(文法等)
中 3	3	IX ディスカッションをしよう	意見交換のための表現
	2	VIII 将来について話そう	関係代名詞、5文型
	1	VII 経験について話そう	受動態、現在完了
中 2	3	VI 好みについて話そう	比較
	2	V 趣味について話そう	不定詞、動名詞、接続詞
	1	IV 週末について話そう	過去形、未来表現
中 1	3	III 電話でやり取りしよう	現在進行形、助動詞 can
	2	II インタビューをしよう	疑問詞、三単現
	1	I お互いのことを知ろう	be動詞、一般動詞

各学期の学習を生かして、パフォーマンス課題に関する単元は学期末の実施を想定し、活用を促す表現(文法)との関連に留意した。そして、中学校3年間9学期分のパフォーマンス課題資料集「Step by Step」を系統的に作成し、「I」から「IX」のローマ数字でナンバリングした(表3)。

(1) パフォーマンス課題資料集「Step by Step」の生徒用シート

以下に、生徒用シートの詳細を主な学習活動の順に述べる。パフォーマンスの発揮に向けた①～③の学習活動で生徒が使う各シートは、HOP・STEP・JUMPの3段階で学習活動を設定した。

① 「単元の見通し」で使うシート

A : Approach (「目標への道」の見通しをもつ)

HOP → モデル対話を確認し、パフォーマンス課題を把握する。  
 STEP → シンプルな対話の流れで、音読や対話練習をする。  
 JUMP → 相づち等を含む積極的な対話で音読や対話練習をする。

「楽しい時間を過ごした？」 → 「何をした？」 → 「どうだった？」のように関連内容で質問したり、応答文に一言加えて関連内容で補足したりする目指す対話の流れを確認し、相づち等の積極的な態度も意識化する (図2)。

自然なモデル対話の下線部を自由に入れ  
☆は相づちを考え、積極的に入れ

A: Did you have a good time last weekend?  
 B: \_\_\_\_\_  
 A: ☆ What did you do?  
 B: I \_\_\_\_\_  
 A: ☆ How was it?  
 B: It was \_\_\_\_\_ [+]

図2 対話の流れを見通すシート

② 「知識の整理と活用」で使うシート

B : Basic (自己表現の「基礎」を身に付ける)

HOP → Q&A リストの英語をすらすら読む練習をする。  
 STEP → Q&A リストの日本語訳を見て英語で言う練習をする。  
 JUMP → 顔を上げ、自分の考えで答える練習をする。

各学期の既習表現を精選したQ & Aリストを基礎とし、音読練習をして知識を整理した上で、対話内容に応じて英文の言葉を入れ替えたり、質問を自由に組み合わせたりして活用を促し、知識の定着を図ることができる (図3)。知識の確実な定着のために家庭学習での練習も促し、Expressionでの英作文練習につなげる。

Basic Step by Step IV 週末について話そう  
 2-( ) No.( ) Name: \_\_\_\_\_

<目標> 過去や未来の表現に気をつけて、自然で正確な会話を積極的に続ける。  
 HOP : Q&Aの英語をすらすら読めるまで練習する。  
 STEP : 日本語訳を見て英語で言えるまで練習する。  
 JUMP : 顔を上げて自分の考えを考えて英語で言えるまで練習する。

☆Q&A [ ]の言葉は入替可。( )の言葉は省略可。 1~8は先週末

No.	Questions	Answers
1	Did you have a good time [last weekend]?	Yes, I did. /
2	What did you do?	I [played tennis]
3	How was it?	It was [fun /
4	Did you watch TV?	Yes, I did. /
5	What TV show did you watch?	I watched [S
6	Was it [interesting]?	Yes, it was.
7	Where were you at [noon] [last Sunday]?	I was [at sch
8	What were you doing then?	I was [having
9	What are you going to do [this weekend]?	I'm going to [
10	When are you going to [have a club activity]?	I'm going to [

図3 基礎の活用を促すシート

C : Communication (「コミュニケーション」を続ける力を付ける)

HOP → 対話文を踏まえた伝え方を、例を見て確認する。  
 STEP → やり取りで分かったことを別の相手に話す。  
 JUMP → 別の相手に話した内容を3文程度で英作文する。

ペアの生徒との問答で理解したことを別の相手に話したり、書いたりする統合的な言語活動を積み重ね、話す側も聞く側も互いへの関心を高め、積極的に対話を継続しながら表現力の向上を図れるようにする。教師の添削を通して、新たな表現や正確な表現を学ぶチャンスにもなる (図4)。

Communication Step by Step IV 週末について話そう  
 2-( ) No.( ) Name: \_\_\_\_\_

<HOP> 例を見て、書き方を確認しよう。  
 <STEP> ペアの友達とやり取りした後、わかったことを、三人称の表現に気をつけて英語で書こう。  
 <JUMP> やり取りした後、友達について分かったことを友達の欄に書こう。

No.	Date	Friend's name	3分英作文(目標:3文程度) 提出し、チェック
例	/	Kenが友達のYukiと右の対話をした場合 Yuki	Yuki went to Tokyo Disney! It was hot, but she enjoyed She will have practice game
①	/	主語は3人称(2文目から代名詞)	

図4 理解した内容を作文するシート

E : Expression (「自己表現」に磨きをかける)

HOP → Basic の質問の日本語 (アレンジ可) を英文にして書く。  
 STEP → 質問の応答を、自分の立場で考えて書き、補足する情報も書き加える。  
 JUMP → ペアでの対話を書き出し、自然で積極的な対話の流れや正確な表現について見直す。

Basic のQ & Aや対話の継続に慣れてきたところで英作文をし、教師の添削も踏まえて表現を見直す。最終的に、即興性を意識したやり取りの中で正確な表現ができることを目指す。また、HOPとSTEPの内容については、Basicの知識の確実な定着や、自律的な学習態度の育成のために、家庭学習で計画的な取組を促し、授業で取組状況を確認する (図5)。

Expression Step by Step IV 週末について話そう

♪ 家庭学習のポイント ♪ 英文を書きやすくなるようにBasicの音読練習を繰り返して何度か確認し、Expressionで表現しよう。

o.	Basicの質問 (アレンジ可)	<HOP> 質問の日本語を英文にして書こう。(なるべくQ&Aを見ない。)	<STEP> 友達の答えを聞いて、自分の立場で考えて書き、補足する情報も書き加えよう。
1	あなたは[先週末]、楽しい時間を過ごしましたか。		
2	あなたは何をしましたか。		
3	それはどうでしたか。		

⇒

<JUMP> オリジナルスキットを書き出し、対話練習しよう。  
 ◎友達と先週末や今週末のことを英語で話そう。その上で対話を繰り返して英語を加えたりしながら、自然で正確な対話になるようにしよう。

前半で質問中心の人 → A: ( )  
 後半で質問中心の人 → B: ( )

<対話前半>  
 A: \_\_\_\_\_  
 B: \_\_\_\_\_

図5 自己表現の正確性を高め、目指す対話に近付けるシート



③ 「目標設定と振り返り」で使うシート

D : Daily Check (「日々の振り返り」で自分を育む)

HOP → 授業中のパフォーマンスを振り返り、自己評価(相互評価)を記録する。  
 STEP → スピーキングテストに向けた日々の家庭学習等を記録する。  
 JUMP → 学習活動全体の振り返りを書く。

ALTとのやり取り(スピーキングテスト)に向けて、目標とする姿をイメージし、それに向けて自分の取組の自己評価を重ね、課題意識を基に自己調整し、自律的な学習ができるようにする。

表面は、スピーキングテストと同じ評価表を使った自己評価(または相互評価)を授業の終末(または帯活動後)の振り返りで記入し、次回の言語活動への課題意識をもてるようにする。

裏面は、家庭学習等の目標設定や振り返りをし、スピーキングテストまで毎日の家庭学習状況を記録し、計画的な学習を促す。また、単元末の目標の姿や、単元の学びを生かす理想の将来像も連続性を意識して書き、学習の内発的動機付けを図る(図6)。

図6 表現力向上と計画的な家庭学習を自律的に促進するシート

④ 「パフォーマンスの発揮」で使うシート

F : Feedback (具体的な「フィードバック」で課題を確認する)

スピーキングテストでの生徒とALTとのやり取りを分析的に評価し、Daily Checkの自己評価表と同じ表にテスト結果を記入して生徒に渡す(図7)。ルーブリック(採点基準)をシンプルにし、学習指導要領で示された資質・能力の三つの柱に基づく3観点計9項目に加え、特によい点をアピールポイントとして加点し、計10点で点数化する。質問タイプの欄に載せた英文はBasicの質問と対応しており、やり取りの誤りは質問タイプの番号とともにメモ欄に具体的に書き出し、生徒に正しい理解を促す。テスト結果はGradeに入力し、指導上の課題把握や評価の活用につなげる。ALT用英語版も作成し、やり取りしながらでも評価しやすいようにした。

図7 具体的なテスト結果シート

⑤ 「評価のポートフォリオ化」で使うシート

G : Grade (「成績」の記録で課題意識を継続する)

スピーキングテストを各学期に1回、年間計3回実施することを想定し、1枚のシートに設けた3回分の記入欄に、順にFeedbackから結果を転記し、スピーキングテスト結果の感想や次回への決意も書くようにする。こうすることで、生徒が学びの連続性を意識し、次回のテストに向け、継続的な課題意識をもつことができる。また、英語教員あるいは保護者のコメント欄も設け、継続的な英語学習への動機付けができるようにする。こうした評価をポートフォリオ化することで、努力が可視化されて自信につながり、英語習得のための自律的な学習態度の育成につながる(図8)。

図8 テスト結果の年間記録シート

## (2) パフォーマンス課題資料集「Step by Step」の教師用ガイド

学習指導要領の三つの柱で焦点化した目標や指導を踏まえ、評価も三つの柱で観点別に行うことで、スピーキングテストの妥当性向上につながる。このような指導と評価の一体化を意識した Daily Check での自己評価の継続など、資料集の活用方法を示したのが「教師用ガイド」である。「教師用ガイド」により、スピーキングテストの信頼性や実用性向上にもつなげることができる。

### ① 指導と評価に関する共通理解のための「準備シート」

単元末のスピーキングテストを含め、4時間計画の単元計画例と、1時間ごとの授業展開例を「準備シート」の「指導例」で確認し(図9)、パフォーマンス課題資料集「Step by Step」を活用する。さらに、「準備シート」の「評価例」でスピーキングテストのルーブリックの確認後、対話文や対話状況の説明を踏まえた評価練習をし(図10)、教員間の共通理解を図る。また、ALT用英語版を用いて、ALTと生徒役のJTEとで実際にやり取りしながら評価練習をすることもできる。これにより、教員間の評価のずれが減り、スピーキングテストの信頼性向上につながるができる。

1) 単元計画例		2) 授業展開例	
単元	○年 Step by Step □「---」	1時間目	焦点化するコミュニケー
目標	【～(話題)】について、【---】的に継続できる。	ねらい	：学んだ英語を生かして、【---】ができるようにする。「主
表現	--- (上記の教科書範囲)	学習活動	
課題	ALTとお互いの【～(話題)】	①ウォームアップ	・英語でやり取り
時間	主な「コミュニケーション」	②パフォーマンス課題の把握	・既習言語材 (Approach) 一人二役、ワークシート集 A-Fの配付
1	「積極的な態度」 ①モデル対話の提示による (ワークシート集配付)	10	

図9 「指導例」に関する準備シート

生徒 T=教師		①正確な表現 ②やり取りの継続	
対話例		対話状況	
Did you go anywhere last weekend?		①過去形の文でも未来表現の問答ができるが、誤りが1.61:	
Yes, I went to the park.		②すらすらとやり取りができ、関連する内容で質問や補足	
Did you do anything at home?		③アイコンタクトがよくでき、声でやり取りし、自然な相づ	
Yes, I had a lot of homeworks.			
How many homeworks do you have?			
Five.			
Are you going to do this homework?			
Yes.			
			☆笑顔で生き生きとやり取り

図10 「評価例」に関する準備シート

### ② 指導上の課題把握や評価の活用のための「評価シート」

Feedback のスピーキングテスト結果を表計算ソフトに入力すると、観点別評価の評価基準であるABCや項目ごとのクラス平均値が自動表示されるように設定した(図11)。個人やクラス全体の傾向を踏まえた指導上の課題把握や成績処理などの評価の活用を簡単にすることができる。テストの円滑な実施という点で、Feedback とともに「評価シート」は、スピーキングテストの実用性向上につながる。

No.	Name	①正確な表現				②やり取りの継続					
		A	I	U	得点	A	I	U	得点		
1	生徒A	1	1	2	B				0	C	
2	生徒B	1	1	1	3	A	1	1	1	3	A
3	生徒C				0	C			1	1	E
4	生徒D	1		1	2	B	1			1	E
5	生徒E	1		1	2	B			1	1	E
6	生徒F	1		1	2	B	1		1	2	E
7	生徒G			1	1	B			1	1	E

図11 観点別評価を分析する評価シート

## (3) パフォーマンス課題資料集のポートフォリオ「Future Passport」

学習後の資料集をファイリングして、「Future Passport」として生徒が主体的にポートフォリオ化できるようにした(図12)。まず、目次書き加えてクリアポケットの中身を自在に整理できるようにした。目次の後には「My Dream Map」として、学んだ英語を生かす理想の将来像を Daily Check と関連させて追記するマッピング用紙や、「My Performance」として、英語を活用した学習体験等の軌跡の記録が続くようにした(図13)。これにより、生徒が学びの連続性や、学びと将来のつながりを意識して、自律的な英語学習の動機付けが継続されるようにする。

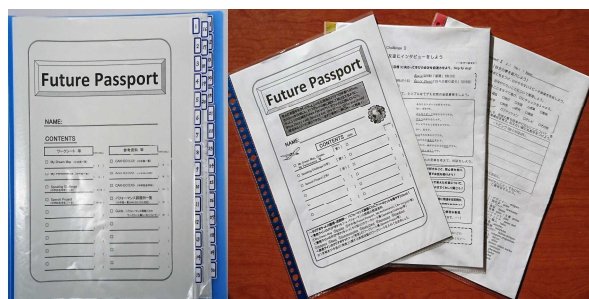


図12 「Future Passport」のファイリングの例

Dream Map		My Performance	
英語学習へのやる気を高められるように下の例を参考に、自分の考えのメモを、マッピング形式で書き加えていこう!		①話すこと(やり取り) ポケット No.	
挑戦したい	世界一周旅行をしたい	高校または中学校卒業後	
外国でホームステイの体験をしたい	海外旅行を楽しみたい	3学期	
英語を使ってやってみたいこと	有名な世界遺産を見に行きたい	2学期	
	外国で生活してみたい	1学期	

図13 自律的な学習の継続を動機付けするシート



### 3 研究構想図



## IV 研究の計画と方法

### 1 実践の概要

対象	協力校 中学校第2学年 34名
実践期間	平成30年10月16日～22日 4時間
単元名	「Step by Step IV 週末について話そう」 (Lesson 1～3の各課の指導時間の一部を復習として独自にまとめた単元)
単元の目標	週末（先週末と今週末）についてのALTとの対話において、過去や未来の時制に気を付けながら、自然で正確な対話を積極的に継続することができる。

### 2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	パフォーマンス課題に向けた毎時の指導において、 <u>Daily Check</u> を使って生徒に学習の振り返りをさせたり、その後の取組への課題意識をもたせたりすることを通して、自己理解を深めながら計画的に学習することを促し、パフォーマンス課題に向けた自律的な学習態度を育むことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>Daily Check</u></li> <li>・ アンケート</li> <li>・ 観察</li> </ul>
見通し2	生徒のパフォーマンスを教師が評価する場面において、 <u>Daily Check</u> と同じ評価表を使って評価したり、事前に評価練習をして評価の共通理解を図ったりすることで、スピーキングテストの信頼性・妥当性・実用性を高め、生徒が評価の観点を意識して積極的にパフォーマンスを発揮することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>Daily Check</u></li> <li>・ アンケート</li> <li>・ ビデオ記録</li> <li>・ 観察</li> </ul>



### 3 実践

#### (1) パフォーマンス課題資料集の「教師用ガイド」に基づく単元計画

「教師用ガイド」の「準備シート（指導例）」は「Step by Step」の各単元で同様の流れで指導できるようにパターン化したものである。本単元もこれに基づき、単元計画を立てた（表4）。なお、本実践では、表の備考にあるパターン①で指導実践をした。

表4 単元計画

単元	Step by Step IV 「週末について話そう」（教科書範囲 Lesson 1～3）	
目標	先週末や今週末のことについて、過去・現在・未来の時制に気を付けながら、自然で正確な対話を積極的に継続できる。	
表現	動詞（一般動詞・be動詞）の過去形、未来表現（be going to・will）	
課題	ALTとお互いの週末について話すやり取りを継続する。（一人1分程度）	
時間	「コミュニケーションポイント」と主な学習活動	使用する主なシート
1	「積極的な態度」 ①モデル対話の提示によるパフォーマンス課題の把握（ワークシート集配付）・本時のめあての確認 ②シンプルなモデル対話での音読と対話練習 ③Q&Aリストの間答練習「インプットチャレンジ」 ④より自然なモデル対話での音読と対話練習 ⑤本時の学習の振り返りと家庭学習の目標設定	→ <u>Approach</u> <HOP> → <u>Approach</u> <STEP> → <u>Basic</u> <HOP><STEP><JUMP> → <u>Approach</u> <JUMP> → <u>Daily Check</u> <HOP><STEP>
2	「やり取りの継続」 ①家庭学習状況の確認・本時のめあての確認 ②相手を替えながらの対話練習「ラウンドトーク」（すらすら返答→関連内容の補足→関連内容の質問） ③聞き取った内容の口頭伝達と英作文 ④本時の学習の振り返りと家庭学習の目標設定 ※帯活動（別単元に絡めるか、TT時等に定期実施）で行う場合→②③④（計10分程度）×4回が目安	→ <u>Daily Check</u> <STEP> → <u>Basic</u> <JUMP> <u>Communication</u> <HOP><STEP><JUMP> → <u>Daily Check</u> <HOP><STEP>
3	「正確な表現」 ①めあて提示につなげる「クリスクロスゲーム」 ②本時のめあての確認 ③横ペアとの対話とそのリプロダクション ④対話文の推敲と横ペアとの対話練習 ⑤前後のペアでの発表後、対話相手を替えて即興練習 ⑥本時の学習の振り返りと家庭学習や次時の確認	→ <u>Expression</u> <HOP><STEP> → <u>Expression</u> <JUMP> → <u>Daily Check</u> <HOP><STEP>
4	「学習してきたポイントと自分のアピールポイント」 ①本時のめあての確認と最終リハーサル ②ALTとのスピーキングテスト（順次） 待機中は補充学習や「My Dream Map」等の見直し ③（テスト終了後）学習活動全体の振り返りの記入	→ <u>Daily Check</u> <JUMP>
事後指導	①テスト結果としての <u>Feedback</u> の返却と確認 ② <u>Grade</u> へのテスト結果の転記と振り返りの記入	→ <u>Feedback</u> → <u>Grade</u>
備考	※単元計画の時数の取扱いは、教師の指導観に応じて調整可能。 パターン① 1週間程度で4時間を集中して指導（テストを2時間とするなら5時間） パターン② 2週間程度で1単元に絡め、帯活動を中心に指導 パターン③ 1ヶ月間程度でALTとのTT授業等で定期的に指導	

## (2) 単元計画との関連における指導と評価の工夫

単元指導の流れとして、1時間目から順に、資質・能力の三つの柱に基づく観点別のめあてを提示し、生徒が目指す対話をイメージした上で、対話に慣れ、最終的に正確さを見直し、[やり取り]のパフォーマンスをバランスよく向上できるように計画した。また、毎時の振り返りで使う Daily Check やスピーキングテストの振り返りで使う Grade でルーブリックを意識して、継続的に課題意識をもって自己調整につなげることで、自律的な学習の促進を図るようにした (図15)。

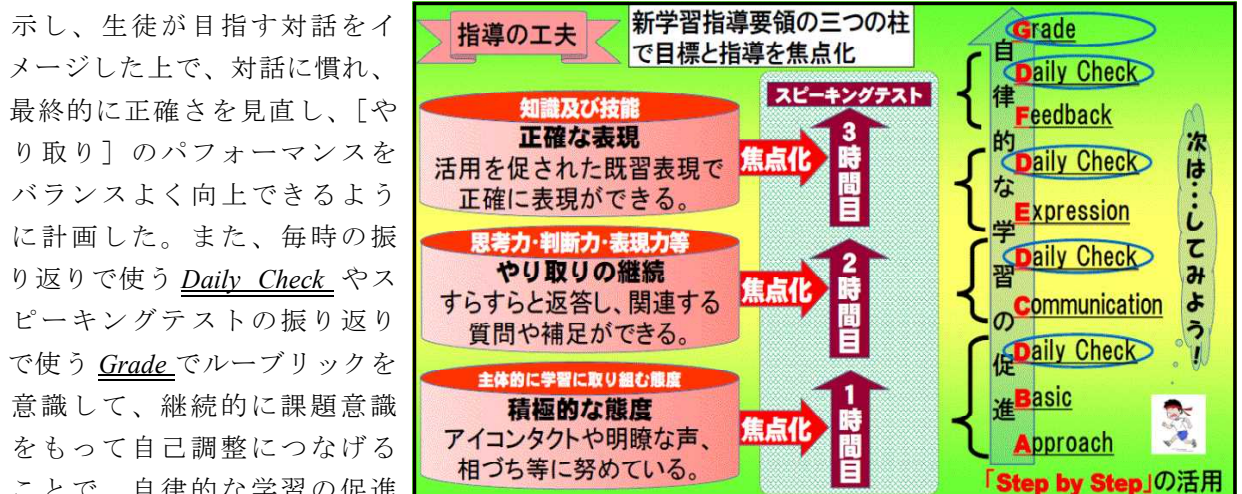


図15 指導の流れにおける観点別のねらいと「Step by Step」の活用

評価の具体的な取組では、よいテストの条件である信頼性・妥当性・実用性のバランスに留意して、指導との関連の中で向上に努めた (図16)。

まず、信頼性向上のために、単元指導を始める前に、教師用ガイドの「準備シート」で指導例や評価例を確認し、英語教員間の共通理解に努める。ルーブリックを確認した上での評価練習は、ALTとJTEでロールプレイでの練習も必要に応じて重ねる。次に、妥当性向上のために、三つの柱に基づく目標と指導を踏まえて評価も三つの柱で行い、指導と評価が一体化されるようにする。特に、ルーブリックに基づくテストの評価表 (図17) を Daily Check に載せ、生徒が課題意識をもって自己調整を重ね、積極的なパフォーマンスの発揮につなげられるようにする。最後に、実用性向上のために、スピーキングテストの円滑な実施を目指し、テストでのやり取りを、Feedback で簡単かつ具体的にチェックできるようにする。特に、1分間のやり取りの前半はALTが質問し、「正確な表現」の3項目を評価する質問をする。さらに、「やり取りの継続」の評価として、「すらすらと返答」や「関連する内容での補足」の状況に注意する。後半は生徒が質問し、「やり取りの継続」の評価として、「関連する内容での質問」の状況に注意する。「積極的な態度」については、やり取り全体を踏まえて評価する。また、教師用ガイドの「評価シート」にテスト結果を入力することで算出される観点別評価を分析し、個人や学級全体の状況を把握し、事後の指導に生かせるようにする。

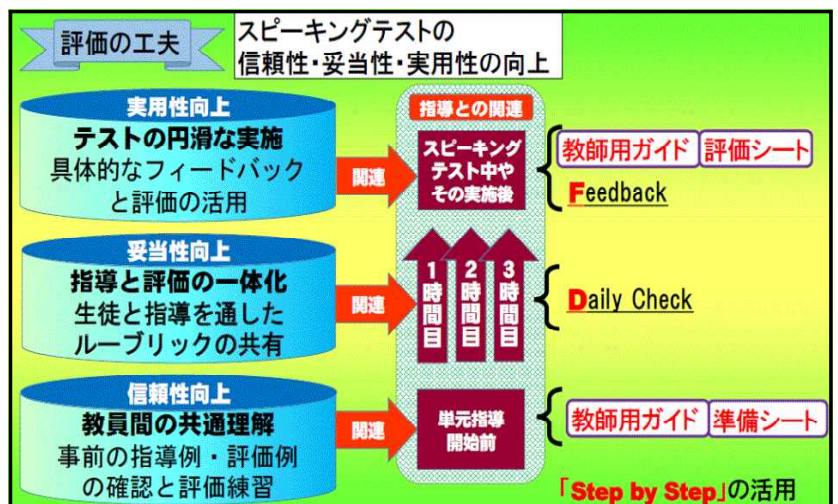


図16 評価のための具体的な取組と「Step by Step」の活用

課題	ALTの先生とお互いの週末について話すやり取りを継続する。(1人1分程度)			
日付	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
得点		①正確な表現 (既習文法・語句を使った問答の様子)	②やり取りの継続 (すらすら答え、補足・質問をする様子)	③積極的な態度 (アイコンタクト、声、相づち等の様子)
/	できた項目→各1点	<input type="checkbox"/> 一般動詞過去形の文の問答 <input type="checkbox"/> be動詞過去形の文の問答 <input type="checkbox"/> be going toやwillの文の問答	<input type="checkbox"/> すらすらと返答 <input type="checkbox"/> 関連する内容での補足 <input type="checkbox"/> 関連する内容での質問	<input type="checkbox"/> アイコンタクト(紙を見ない) <input type="checkbox"/> 聞き取りやすい声 <input type="checkbox"/> 相づちやジェスチャー等
アピールポイント→1つ以上で1点		<input type="checkbox"/> 完璧なアイコンタクト(Perfect Eye Contact) <input type="checkbox"/> 流ちょうな表現(Fluent Expression) <input type="checkbox"/> 笑顔など表情のよさ(Nice Smile) <input type="checkbox"/> 興味深い話の内容(Interesting Talk)	<input type="checkbox"/> 効果的なジェスチャー(Good Gesture) <input type="checkbox"/> 発音のよさ(Good Pronunciation) <input type="checkbox"/> 元気で大きな声(Big Voice) <input type="checkbox"/> その他→	
/10点				

図17 三つの柱でパターン化したスピーキングテストの評価表

最後に、実用性向上のために、スピーキングテストの円滑な実施を目指し、テストでのやり取りを、Feedback で簡単かつ具体的にチェックできるようにする。特に、1分間のやり取りの前半はALTが質問し、「正確な表現」の3項目を評価する質問をする。さらに、「やり取りの継続」の評価として、「すらすらと返答」や「関連する内容での補足」の状況に注意する。後半は生徒が質問し、「やり取りの継続」の評価として、「関連する内容での質問」の状況に注意する。「積極的な態度」については、やり取り全体を踏まえて評価する。また、教師用ガイドの「評価シート」にテスト結果を入力することで算出される観点別評価を分析し、個人や学級全体の状況を把握し、事後の指導に生かせるようにする。



## V 研究の結果と考察

1 パフォーマンス課題に向けた毎時の指導において、Daily Check を使って生徒に学習の振り返りをさせたり、その後の取組への課題意識をもたせたりすることを通して、自己理解を深めながら計画的に学習することを促し、パフォーマンス課題に向けた自律的な学習態度を育むことができたか。

### (1) 授業の概要

4 時間計画の単元の 1 時間目に、まず ALT と JTE のモデル対話をビデオで見せた。既習表現を生かして ALT と 1 対 1 でやり取りするチャンスとし、単元末のパフォーマンス課題を確認し、スピーキングテストとして評価することを伝え、学習の動機付けをした。

単元の 1～3 時間目は、観点別のねらいとして「積極的な態度」→「やり取りの継続」→「正確な表現」の順に焦点化したコミュニケーションポイントを提示し、「Step by Step」の生徒用シートを目的別に使用し、4 時間目のスピーキングテストに向け、やり取りの力がバランスよく高まるように指導した。その過程で Daily Check を使い、生徒の学習の振り返りを授業中の言語活動と家庭学習等の 2 種類で行い、課題意識をもって自己調整することを継続し、自律的な学習の促進につなげた。また、家庭学習等の記録表の先には、自分が目指す単元のゴールの姿、学んだ英語を生かす理想の将来像を記入する欄を設け、My Dream Map の記入内容とつなげて学習への意識が高まるようにした。

### (2) 生徒の様子

「週末について話そう」という単元の全体を通して、先週末や今週末のことを動詞の過去形や未来表現といった既習表現を活用し、日本語での会話同様に、楽しく活発にやり取りする生徒の様子が見られた (図18)。



図18 言語活動の様子

学習の目標設定や振り返りのための Daily Check において、生徒 A は授業中の言語活動の振り返り (図19) で 1 時間目終了時にチェックが入ら

なかったもののうち、「関連する内容での補足」について特に課題意識をもった。そして、「次回へ」の欄に「自分で考えて関連することを加える」と記した。2 時間目の言語活動では、「関連する内容での補足」をやり取りに加えて自己調整の様子が見られ、2 時間目終了時には「関連する内容での補足」の自己評価にチェックが入った。このように、Daily Check の活用を通して、授業中の言語活動の自己

日付	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	観点	①正確な表現 (既習文法・語句を使った解答の様子)	②やり取りの継続 (すらすら答え、補足・質問をする様子)	③積極的な態度 (アイコンタクト、声、相づち等の様子)
10/16 (水)	できたか チェック	<input type="checkbox"/> 一般動詞過去形の文での問答 <input type="checkbox"/> be動詞過去形の文での問答 <input type="checkbox"/> be going to/willの文での問答	<input checked="" type="checkbox"/> すらすらと返答 <input type="checkbox"/> 関連する内容での補足 <input type="checkbox"/> 関連する内容での質問	<input checked="" type="checkbox"/> 自己評価→課題意識 <input type="checkbox"/> 聞き取りやすい声 <input type="checkbox"/> 相づちやジェスチャー等
	次回へ	自分で考えて関連することを加える		
10/18 (金)	できたか チェック	<input type="checkbox"/> 一般動詞過去形の文での問答 <input type="checkbox"/> be動詞過去形の文での問答 <input type="checkbox"/> be going to/willの文での問答	<input checked="" type="checkbox"/> すらすらと返答 <input checked="" type="checkbox"/> 関連する内容での補足 <input type="checkbox"/> 関連する内容での質問	<input checked="" type="checkbox"/> アイコンタクト(紙を見ない) <input checked="" type="checkbox"/> 聞き取りやすい声 <input type="checkbox"/> 相づちやジェスチャー等
	次回へ	自分で考えて関連する質問をする		課題意識→自己調整

図19 生徒AのDaily Check (授業中の言語活動)

評価から課題意識をもち、「次は～してみよう」、「次は～できるようにする」といった次回の目標設定に生かして自己調整することを繰り返したことで、自律的な学習のサイクルにつなげることができた。

Daily Check を用いた家庭学習等の振り返り (図20) でも、自分の取組の自己評価から課題意識をもち、

日付	学習内容と時間	今回の振り返り	次回の目標
① 10/16 (水)	③ アリス音読 (10時間 5分程度)	少しづつかえながら読んでいた。目標到達度(A・B・C)	スラスラ読んで止まらないようにする
② 10/17 (木)	④ アリス音読 (10時間 10分程度)	スラスラ読めていて、自分でも驚いた。目標到達度(A・B・C)	この中の言葉を覚えておいて、スラスラ読める。
③ 10/18 (金)	⑤ アリス音読 (10時間 10分程度)	自分なりの答えで読めることができた。目標到達度(A・B・C)	1文かえたり、質問を加えたりする。音読スピードアップさせる。

図20 生徒AのDaily Check (家庭学習等の取組)

それを翌日の家庭学習の目標設定に生かして自己調整を繰り返したことで、自律的な学習を促進するサイクルができ、スピーキングテストに向けた計画的な学習につながったと考える。

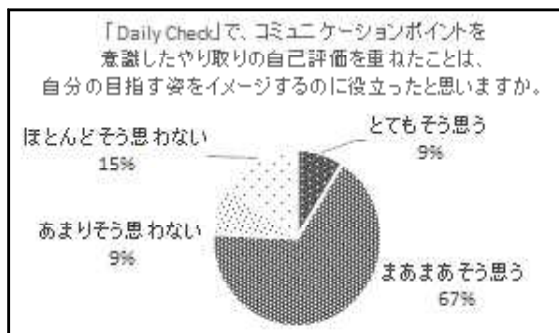


図21 アンケート結果<1>

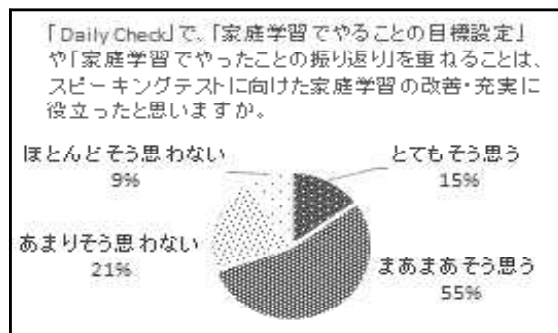


図22 アンケート結果<2>

単元の学習後にアンケートを実施したところ、授業中の言語活動の振り返りでコミュニケーションポイントを意識したやり取りの自己評価を重ねたことが、自分の目指す姿をイメージするのに役立ったと肯定的に感じている生徒が76%いた（図21）。また、家庭学習等の目標設定と振り返りが、スピーキングテストに向けた家庭学習の改善・充実に役立ったと肯定的に感じている生徒が70%いた（図22）。一方で、こうした学習の振り返りに有効性を感じなかった残りの生徒の多くは Daily Check の記入に不備が見られた。Daily Check を教師が授業後に回収・点検し、必要に応じて記入の仕方等の個別指導を行うことの大切さを改めて感じた。

また、Daily Check や My Dream Map で、英語を使う自分の将来像を意識することが学習意欲を高めるのに役立ったと肯定的に感じている生徒が70%いた（図23）。My Dream Map に学んだ英語を生かす理想の将来像を多く書き込めた生徒ほど、学習意欲の高まりを感じる傾向が見られた。このことから、生徒が Daily Check を使って学びと将来をつなげて意識したり、My Dream Map の記入や見直しを定期的に行ったりすることで、生徒の生涯にわたる英語習得への内発的動機付けにつながり、自律的な学習態度が涵養されると考える。

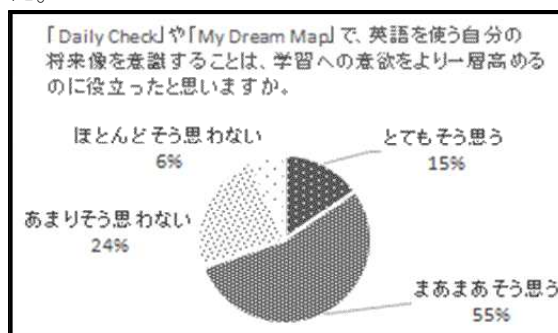


図23 アンケート結果<3>

## 2 生徒のパフォーマンスを教師が評価する場面において、Daily Check と同じ評価表を使って評価したり、事前に評価練習をして評価の共通理解を図ったりすることで、スピーキングテストの信頼性・妥当性・実用性を高め、生徒が評価の観点を意識して積極的にパフォーマンスを発揮することができたか。

### (1) 授業の概要

スピーキングテスト前の最終段階では、Expression のワークシートにペアでの対話を書き出し、相づち等の「積極的な表現」、関連する内容での質問や補足といった「対話の継続」にも気を付けて、「正確な表現」の見直しをした。指導と評価の一体化につながるように、授業中の言語活動の取組を振り返る Daily Check の自己評価表をスピーキングテストの評価表でも使うことを事前に伝え、単元の4時間目は、「自然で正確な対話を積極的に継続することができる」ことを目標とし、ALTとのやり取りをスピーキングテストとして評価した（図24）。テスト後に Feedback で生徒への具体的なフィードバックをし、Grade にテストの振り返りを記入させた。



図24 テストの様子

### (2) スピーキングテストにおける教師の取組と生徒の様子

今回のスピーキングテストは JTE と ALT の両方で評価することにし、教師用ガイドの準備シートの評価例を確認したり、ロールプレイをしたりして事前に評価練習を重ね、テストの信頼性向上に努めた。そして、妥当性向上のために、Daily Check と同じ評価表を使って評価することで、生徒の積極的なパフォーマンスの発揮につながるようにした。



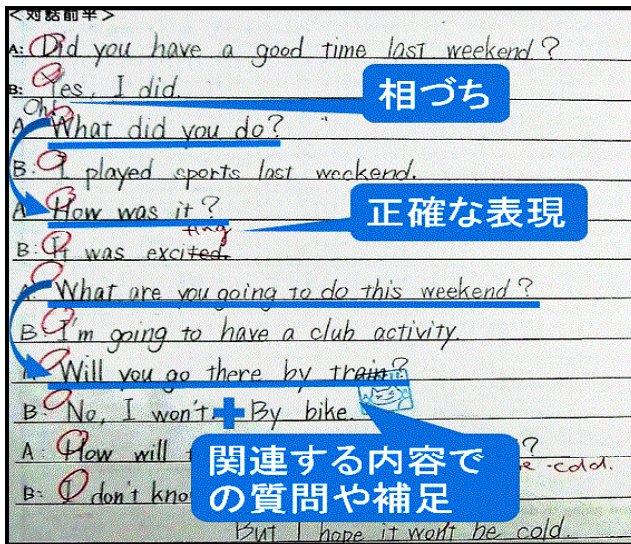


図25 Expression での対話文の見直し

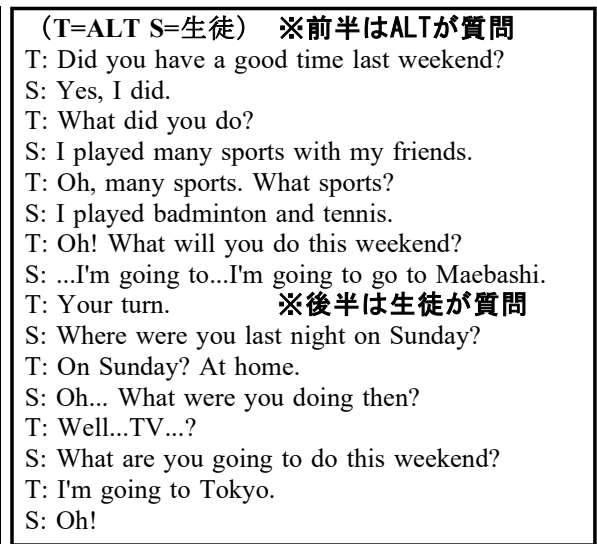


図26 スピーキングテストでの実際の対話内容

Expression で図25のように取り組んだ生徒AはALTとのスピーキングテストで図26の内容の対話をした。笑顔で自然なアイコンタクトをとりながら、聞き取りやすい声でALTとやり取りすることができた。Feedback (図27) は、JTEが生徒Aの対話を評価したもので、ALTの評価とも一致した。Feedback は分析的で評価しやすく、やり取りをしながらの評価も可能であるというALTの感想から、実用性の面で Feedback は効果的であると考える。テストの様子はビデオ撮影をして、評価の見直しや相違点の原因の確認をしたり、クラスへのフィードバックに使ったりして、次のテスト実施に向け、指導と評価の改善・充実につなげることが大切であると考えられる。

テスト結果は Feedback の評価表に記録した上で生徒に渡し、Grade に転記させた (図28)。毎回の評価を書き加えて、ポートフォリオ化することで、生徒が学びの連続性を意識し、課題意識の継続につながると考える。

項目	ALTとの主な対話内容		主に対話前半		主に対話後半		①正確な表現
	質問タイプ	返答の文	補足の文	質問の文	質問の文		
過去形 一般動詞 の文	①Did you have a good time [last weekend]?	○					→ ○
	②What did you do?	○					
	③Did you [watch TV]?						
	④What [TV show] did you [watch]?						
過去形 be動詞 の文	⑤How was it?						→ ○
	⑥Was it [interesting]?						
	⑦Where were you at [noon] [last Sunday]?				○		
	⑧What were you doing then?				○		
未来形 表現の文	⑨What are you going to do [this weekend]?	○			○		→ ○
	⑩When are you going to [have a club activity]?						
	⑪Are you going to go anywhere?						
	⑫Where are you going to go?						
未来形 文表現	⑬What will you [do] there?				○		→ ○
	⑭Will you be busy [this weekend]?						
	⑮How will the weather be [this weekend]?						

②やり取りの継続	すらすらと返答	関連する内容での補足	関連する内容での質問	①に○がつく条件 ↑ 対話内容で○がある。 ×がない。 (△の数は無関係。)
すらすら返答できない時が1回以下で○ 関連する内容での補足が1つ以上で○ 関連する内容での質問が1つ以上で○	○	○	○	

③積極的な態度	アイコンタクト (紙を見ない)	聞き取りやすい声	相づちや ジェスチャー等
言う時Read & Look upならアイコンタクト○ 返答や質問が全て聞き取りやすい声○ 相づちやジェスチャー等が1つ以上で○	○	○	○

図27 Feedbackでの対話内容の分析的評価

日付	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10/22 (月)	できた項目各1点	<input checked="" type="checkbox"/> ①正確な表現 (既習文法・語句を使った問答の様子) <input checked="" type="checkbox"/> 一般動詞過去形の文の問答 <input checked="" type="checkbox"/> be動詞過去形の文の問答 <input checked="" type="checkbox"/> be going toやWillの文の問答	<input checked="" type="checkbox"/> ②やり取りの継続 (すらすら返答、補足・質問をする様子) <input checked="" type="checkbox"/> すらすらと返答 <input checked="" type="checkbox"/> 関連する内容での補足 <input checked="" type="checkbox"/> 関連する内容での質問	<input checked="" type="checkbox"/> ③積極的な態度 (アイコンタクト、声、相づち等の様子) <input checked="" type="checkbox"/> アイコンタクト(紙を見ない) <input checked="" type="checkbox"/> 聞き取りやすい声 <input checked="" type="checkbox"/> 相づちやジェスチャー等
9/10点	アビール ポイント 1点	<input type="checkbox"/> 1 完璧なアイコンタクト(Perfect Eyecontact) <input type="checkbox"/> 3 流ちょうな表現(Fluent Expression) <input type="checkbox"/> 5 笑顔など表情のよさ(Nice Smile) <input type="checkbox"/> 7 興味深い話の内容(Interesting Talk)	<input type="checkbox"/> 2 効果的なジェスチャー(Good Gesture) <input type="checkbox"/> 4 発音のよさ(Good Pronunciation) <input type="checkbox"/> 6 元気で大きな声(Big Voice) <input type="checkbox"/> 8 その他 →	<input checked="" type="checkbox"/> 課題意識の継続
評価の感想と次回への決意		あと1点でもったいなかった。アイコンタクトやジェスチャーをもっとできるようなりたい。また、関連する内容での補足の1つを消してすらすら返答できるようにしたい。		日頃からのアイコンタクトを心がけ、発音のよさや聞き取りやすい声を出そう!

図28 Gradeでの評価のポートフォリオ化による課題意識の継続

アンケートでは、Feedbackが今後のやり取りの改善に役立つと肯定的に捉えた生徒が88%、Gradeが次回のスピーキングテストに向けた課題意識をもつ上で役立つと肯定的に捉えた生徒が79%いた(図29・30)。このことから Feedbackでの具体的なフィードバックによる課題の確認と、Gradeでの評価のポートフォリオ化による課題意識の継続とが、生徒が積極的にパフォーマンスを発揮する態度につながると考える。

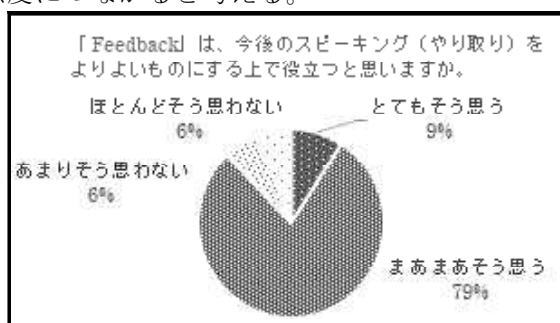


図29 アンケート結果<5>

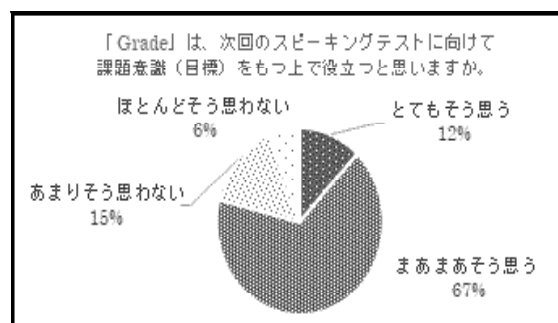


図30 アンケート結果<6>

## VI 研究のまとめ

### 1 成果

- 中学校英語科の「話すこと [やり取り]」の領域の単元において、学習指導要領で育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき、目標・指導・評価を焦点化して、パフォーマンス課題資料集「Step by Step」を系統的に作成し、その効果的な活用法を明らかにすることができた。
- パフォーマンス課題資料集「Step by Step」を活用し、Daily Checkで自己評価を継続させたり、Gradeで次の単元に向けて学びの連続性を意識させたりしたことで、生徒は課題意識をもって自己調整を重ね、自律的に学習に取り組むことができた。また、指導と評価が一体化されるように、Daily Checkの自己評価表とスピーキングテストの評価表に同様のルーブリックを使ったことで、生徒がルーブリックをよく意識して、積極的なパフォーマンスの発揮につなげることができた。

### 2 課題

「話すこと [やり取り]」の系統的な単元指導や指導を踏まえたスピーキングテストを年間計画に位置付け、組織的な取組を継続していくことで教員間の共通理解を深めていけるようにしたい。そのためには、本研究で作成した系統的なパフォーマンス課題資料集「Step by Step」を活用し、業務改善を行うことで、指導と評価の改善・充実につなげることができると考える。

## VII 提言

「話すこと [やり取り]」の指導と評価を、中学校三年間を通して系統的に実施していく上で、本研究で作成したパフォーマンス課題資料集「Step by Step」を活用するとともに、取り組んだ資料集等をポートフォリオ化していくことで、生徒の自律的な学習態度を涵養し、生涯にわたって継続的に英語習得を図ろうとする態度を養うことができる。

### <参考文献>

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説外国語編』 (2017)
- ・小泉 利恵 印南 洋 深澤 真 著 『実例でわかる 英語テスト作成ガイド』 大修館書店(2017)
- ・清田 洋一 著 『英語学習ポートフォリオの理論と実践－自立した学習者をめざして』 くらしお出版(2017)

### <担当指導主事>

町田 邦江 永井 直樹